

2022年7月4日

全国大学国語教育学会
2022年度 学会通信 第1号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

記録的な早さの梅雨明けで、猛暑の日々が続いております。本学会会員の皆様におかれましては、学期末の慌ただしい毎日をお過ごしのことと拝察します。

さて、2022年度学会通信1号をお送りします。以下のご案内にあります通り、学会ホームページに会員専用のマイページをご用意いたしました。また、第143回秋季大会（千葉大会）は、久しぶりに対面にて開催いたします。『国語科教育』第九十三集の投稿につきましてもご案内いたしますので、ふるってご投稿下さい。

◆全国大学国語教育学会マイページのご案内

学会ホームページにマイページをご用意いたしました。学会ホームページよりリンクがありますので、そこから登録頂けます。「登録情報の確認・変更」「年会費の納入状況の確認」が機能としてございます。ご自宅・ご所属先に変更があった際は、マイページにログインいただき、随時変更をお願いいたします。ログインには会員番号とパスワードが必要となります。大変お手数をおかけしますが、ログイン画面中央部の「パスワードの設定はこちら」より、会員番号と学会に登録されているメールアドレスをご入力の上、パスワードの設定をお願いいたします。メールアドレスの登録が無い方、不明の方は、事務局までお問い合わせください。



マイページ登録
はこちら

●お問い合わせ先(事務局) : jtsj-post@bunken.co.jp

今後学会通信のメール配信を予定しております。その他、学会からの様々なお知らせをメールでご案内する可能性がございますので、お早めにマイページにログインいただき、メールアドレスの登録をお願い申し上げます。

第143回全国大学国語教育学会 千葉大会(対面開催)について

◆第143回全国大学国語教育学会 千葉大会 (対面開催)のご案内 (第1次)

実行委員長 寺井 正憲(千葉大学)

皆様におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第143回全国大学国語教育学会・千葉大会は、コロナ対策の制限が緩和されている状況に鑑み、対面で開催いたします。多くの会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

1. 開催日：2022(令和4)年 10月15日(土)、10月16日(日)

2. 会 場：千葉大学 西千葉キャンパス 教育学部
(〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33)

- 学会参加については、事前申し込みを基本といたします。以下の案内にしたがって、事前に参加申し込みの手続きをお願いいたします。
- 宿泊ホテルについては、案内・斡旋をいたしません。各自でお願いいたします。千葉駅周辺には複数のホテルがありますが、なるべく早めに予約されることをお勧めいたします。なお、会場の最寄り駅は、JR西千葉駅、もしくは京成みどり台駅となり、いずれも駅から会場まで徒歩10分程度となります。

千葉大学へのアクセス

<https://www.chiba-u.ac.jp/access/>

西千葉キャンパスマップ(教育学部 赤色のE1、E2)

https://www.chiba-u.ac.jp/campus_map/index.html#map_10131

3. 大会事前情報等：

千葉大会広報サイト <https://sites.google.com/view/jtsj2022chiba>

*シンポジウムや課題研究発表、公開講座に関する情報を随時更新していきます。

*コロナウイルス対策に関する大会運営上の諸注意や状況に鑑みての変更点などについても随時このサイトに情報をアップします。

4. 二日間の概要（予定）

<第1日目 10月15日(土)>

○AM 自由研究発表

○PM 理事会・総会

シンポジウム

新しい実践学としての国語教育学を探る

－教職大学院における国語教育研究のあり方－

コーディネーター 植山俊宏（京都教育大学）

登壇者 佐藤多佳子（上越教育大学）

針尾有章子（京都府総合教育センター）

横田経一郎（植草学園大学）

<第2日目 10月16日(日)>

○AM 課題研究発表

国語教育学研究を見通す① 国語教育学研究、これから10年間のビジョン

コーディネーター 竜田徹（佐賀大学）

登壇者 甲斐雄一郎（文教大学）

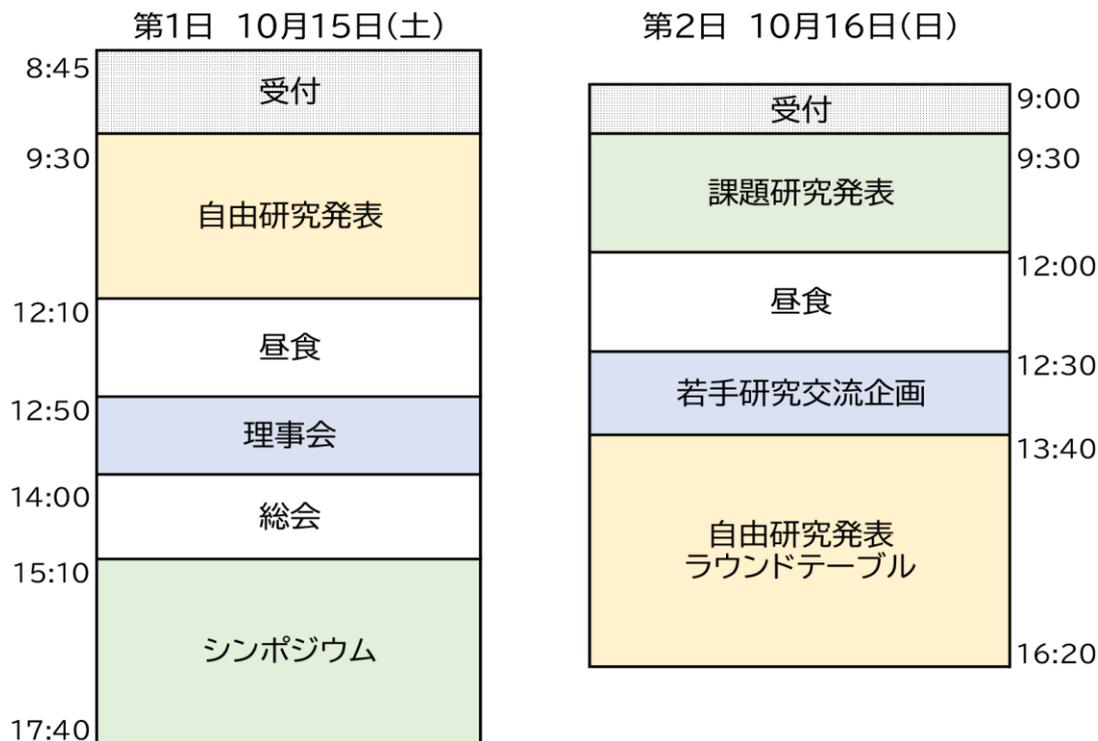
中村敦雄（明治学院大学）

山元隆春（広島大学）

○PM 若手研究交流企画

自由研究発表

ラウンドテーブル



- 1日目の理事会、2日目の若手交流企画は、これまで昼食を取りながら行っていましたが、コロナ対策として昼食(30分)を取った後にそれぞれ行います。

<公開講座について>

10月9日(日) 14:00~17:00

テーマ：ICTと国語科授業実践① – ICTの活用による学習共同体の拡張–

モデレーター 上山伸幸(創価大学)

登壇者(実践報告) 甲斐伊織(学習院中等科)

登壇者(実践報告) 牧野太輝(千葉大学教育学部附属中学校)

登壇者(指定討論者) 若木常佳(福岡教育大学)

※ 今回の公開講座は、学会の大会当日とは異なる日程で開催します。

※ 公開講座は、Zoom ミーティングで実施します。事前の申し込みが必要となりますが、詳細については広報サイトでお知らせします。

※ 公開講座にのみ参加する場合には、学会全体への参加申し込みは必要ありません。(無料で参加することができます。)

※ 公開講座に関する情報は千葉大会広報サイトに随時更新していきます。

(<https://sites.google.com/view/jtsj2022chiba>)

5. 発表の募集

発表は、①自由研究発表と②ラウンドテーブルの二種類になります。コロナ対策の観点から発表数の制限を行います。①自由研究発表は80名まで、②ラウンドテーブルは4会場までといたします。いずれも先着順で、制限数を超えた場合はご辞退いただくことになります。また、いずれも発表要旨を事前に提出する必要があります。

(1) 募集区分

①自由研究発表:発表時間20分+質疑応答10分

②ラウンドテーブル:1時間30分(予定)

(2) 申し込み方法

発表・参加申込システム <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login> よりお申し込みください(千葉大会広報サイトからもお入りいただけます)。申し込み開始は、**7月8日(金)**を予定しています。

なお、Webでの申し込みが難しい場合に限り、別のお申し込み方法をご案内いたします。大会ヘルプデスク(後述7. 参照)までお問い合わせください。

(3) 申し込み締め切り

発表申し込み締め切り 8月16日(火) 17時

要旨投稿締め切り 9月12日(月) 正午

* 要旨について、締め切り日を過ぎた場合は、要旨掲載予定箇所が白紙となります。同時に、千葉大会資料サイトへの要旨掲載も行えなくなります。ご注意ください。

(4) 申し込み上のご注意

①発表資格について

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者と、ラウンドテーブルの発表申込者(コーディネーター)は、本学会の会員資格を有し、年会費を納入していることが条件となります(年会費をご納入いただけない場合は、発表できません)。以下をご確認いただき、お手続きを済ませた上で申し込みをお願いいたします。

・ 今回の発表に際して、新規に入会される方

8月4日(木)までに入会申請を行い、8月16日(火)までに令和4年度の年会費をご納入ください。早めのご対応をお願いいたします。

・ 現会員の方

大会開催年度(令和4年度)までの年会費を、8月16日(火)までにご納入ください。

②その他注意事項

- コロナ対策の観点から発表数の制限を行います。①自由研究発表は80名まで、②ラウンドテーブルは4会場といたします。
- 締め切り後の発表申し込みは、一切受け付けません。
- 自由研究発表の発表日指定はできません。
- 発表申し込み締め切り後は、題目・発表者等の変更はできません(締め切り日までは、ご自身でシステムから修正可能)。
- 発表申し込みの登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむを得ず変更があった場合は、必ず大会ヘルプデスクまでメールでご連絡ください。

(5) 発表申し込み時の入力項目

①自由研究発表

お申し込みは、筆頭発表者が行ってください。

- 発表区分(自由研究発表を選択)
- 題目・副題
- 筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属
- 共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属
- プロジェクター使用希望の有無(パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。なお、準備時間も発表時間に含みます。)

②ラウンドテーブル

お申し込みは、コーディネーターが行ってください。

- 発表区分(ラウンドテーブルを選択)
- 題目・副題
- 登壇者の氏名(ふりがな)、所属、発表形式
- 共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属

- プロジェクター使用希望の有無(パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。なお、準備時間も発表時間に含みます。)

(6) 発表要旨原稿の投稿

- 発表申し込み完了後、投稿できます。
- テンプレートは、学会ホームページ(<https://www.jtsj.org/template/>)に掲載してありますのでご活用ください。A4判4ページ以内になります。大会発表要旨集(6.(2)③参照)には、A4判白黒で掲載)。
- 原稿は、PDFの形式にし、発表・参加申込システムより投稿してください(投稿画面にPDF変換の装置を設置しています)。なお、文字化け等が発生することがありますので、PDF変換後の原稿は必ずご確認ください。
- 要旨原稿はPDFデータを千葉大会資料サイトにも掲載いたします。

(7) 発表にあたっての留意点

- 当日資料を用意する場合は、以下の点にご留意ください。
 - ・ 『発表要旨集』が配付されていることを前提に、要旨原稿との重複を避け、必要な資料にしぼって作成してください。
 - ・ 会場運営の都合上、できるだけA4サイズで作成いただきますようお願いいたします。
 - ・ 150部を作成し、発表当日、発表会場(教室)までお持ちください。大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。
- プロジェクターを使用する場合は、以下の点にご留意ください。
 - ・ パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。
 - ・ 接続ケーブルは用意いたしますが、会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので必ず両方での接続ができるようアダプター等のご準備をお願いいたします。
 - ・ パソコンの接続時間も発表時間に含めます。

6. 大会の参加

事前参加申し込み締め切り9月 25日(日)

※振込決済による郵便為替の申込〆切は9月14日(水)

までですので、お早めにお手続きください。

(1) 申し込み方法

学会参加については、事前申し込みが必要です。申し込み開始は、7月8日(金)からの予定です(開始前は、アクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます)。

1) 発表・参加申込システムのログインページにアクセスする。

【発表・参加申込システム】 <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login>

(千葉大会広報サイトからお入りいただけます)

- 2) ログインIDを取得する。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メールが配信される。
- 3) ログインIDと登録したメールアドレスを入力してシステムへログインする(このログインIDとメールアドレスは、保存・管理をお願いいたします)。
- 4) 申込者情報を登録する(会員としてお申し込みいただく際は、会員番号が必要となります。会員番号は、学会から会員の皆様宛に送られる封筒の宛名に記載されています)。
- 5) 事前参加申込、発表申込、要旨投稿を行う(申し込みが完了すると、登録したメールアドレスに申込完了通知メールが配信されますのでご確認ください)。

(2)大会参加費

①参加費用

以下、該当する金額をご納入ください。申し込み開始日(7月8日(金)を予定)以降、システム上で手続きを行ってください。

事前申込 (9月25日まで受付)	当日申込 (会期前再オープン)
(会 員) 5,000円	(会 員) 6,000円
(学生会員) 3,000円	(学生会員) 5,000円
(非 会 員) 6,000円	(非 会 員) 6,000円
(学生非会員) 4,000円	(学生非会員) 5,000円

※感染拡大防止に向けた取組として、会期当日に現金での受付は行いません。

事前参加申込の締め切り後(9月25日以降)に、ご参加を希望される場合は、参加申込サイトから当日参加申込と参加費のお支払い(クレジットカード決済のみ)を完了させた上で、会場受付にお越しください。

※当日参加申込は、会期前にはオープンいたしますので、受付での人の密を避けるため、会場に来られる前に申込をお済ませください。

※クレジットカードをお持ちでない方は郵便振替での事前申込期間(9月14日)の登録をお願いします。

※公開講座のみ参加の場合は、参加費用が不要のため、発表・参加申込システムによる参加登録は不要です。参加方法については、千葉大会広報サイトでお知らせいたします。

②お弁当(1日目・2日目)各日1,000円

※会場近隣には飲食店等がありません。お弁当の注文をお勧めします。(発表・参加申込システムから注文してください。)

※事前申込期間(9月25日まで)のみ受付をいたします。

※理事会参加の役員の方々、シンポジウム・課題研究発表に登壇される先生方の弁当は、大会事務局で準備いたします。

③お支払い方法

※郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。

※郵便振替の場合：お振込先は、申し込み完了後に配信される完了通知メールに記載されています。**郵便振替の申し込みは9月14日(水)まで、入金は9月15日(木)まで**をお願いいたします。

④その他注意事項

※ 発表申し込みと大会参加申し込みは別です。発表者は、必ず参加申し込みを行ってください。

※印刷された大会発表要旨集を希望される方は、実費(4000円・送料込み)でお求めいただけます。大会参加申し込み時に選択してください。9月25日までに入金を確認した申込は会期

前に発送をいたします。それ以降の申し込み分については、会期後に発送をいたします。なお、大会発表要旨集は、大会終了半年後以降に、J-stageにアップする予定です。

※大会参加のため、新規に本学会に入会される方は、**8月30日(火)までに入会申請を行い、9月13日(火)までに年会費をご納入ください。**ご入会にはお時間がかかりますので、お早めにお手続きください。

※感染拡大防止に向けた取組として、会期当日に現金での受付は行いません。事前参加申込の締め切り後**(9月25日以降)**に、ご参加を希望される場合は、参加申込サイトから当日参加申込と参加費のお支払い(クレジットカード決済のみ)を完了させた上で、会場受付にお越しください。当日参加申込は、会期前にはオープンいたしますので、受付での人の密を避けるため、会場に来られる前に申込をお済ませください。

7. お問い合わせ先

●参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail:jtsj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX:03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail:jtsj-post@bunken.co.jp

TEL:03-6824-9377 FAX:03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●第143回全国大学国語教育学会千葉大会(対面)に関すること

千葉大会事務局

E-mail:terai@faculty.chiba-u.jp

TEL&FAX:043-290-2536

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学 寺井正憲 宛

※お問い合わせは、Eメールでお願いいたします。

◆『国語科教育』第九十三集 投稿募集について

第九十一集編集委員会

1. 投稿論文の受付期間は**2022年8月1日(月)～2022年8月31日(水)** (消印有効) です。
2. 原稿の送付先は下記の通りです。
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
全国大学国語教育学会事務局
電話：03-5389-9377
3. 封書にはかならず「**投稿原稿在中**」と朱書き書留で郵送してください。
4. 以下の『国語科教育』投稿要領に従ってください。

「国語科教育」投稿要領（令和3年1月20日修正）

投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。

2. 重複投稿の禁止

本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受け取らない。

3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。

研究論文：独創的な知見を含む学術研究。

実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。

資 料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。

4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚（8ページ分）以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。

- (1) 横書きの場合

23字×44行×2段（1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）

- (2) 縦書きの場合

33字×31行×2段（1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）

- * 学会ホームページに記載している、**投稿原稿用のテンプレートを必ず使用すること。**
- * 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
- * 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。

7. 原稿は以下の体裁で整えること。

(1) 論文本体

* 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。

*** 論文には氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないこと。(書かれている場合は審査対象から除外されます)**

(2) 注 (ただし、引用のための注はつけない)

(3) 参考文献

*** 論文本体や注、参考文献に「拙稿」「拙著」など、投稿者名が判明するよ
うな記述を行わないこと。**

(4) 研究助成を受けた場合の記載

* 科学研究費等の助成を受けた場合は、書き手が特定されないように、課題番号部分を以下のように記載すること。

(例：本研究は、JSPS科研費課題番号 **** * の助成を受けた) * の数は課題番号の文字数に合わせること。

8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は、原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は、次の通りである。

① 著者が一人の場合は、著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

…… (高橋, 2010)。 …… (Black, 1988)。

高橋 (2010) は, ……。 Black (1988) は, ……。

② 著者が二人の場合は、両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

…… (高橋・鈴木, 2012)。 …… (Black & White, 1992)。

高橋・鈴木 (2012) は, ……。 Black & White (1988) は, ……。

③ 同一刊行年の文献は、刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学 (1999a) 『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学 (1999b) 『学びの快楽 ダイアログへ』世織書房

(3) 論文末に、日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に、非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は、非日本語文献として記載する。記載方法の例は、次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司 (1953) 「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号, 1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

② 書籍

全国大学国語教育学会編著 (2013) 『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫 (1997) 「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書, 1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元他訳 (1995) 『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省 (2011) 「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genngo/1301088.htm (〇年〇月〇日確認)

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:

http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796

(4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。

① 発行年の後に「:」(コロン)を入れて「著者名(発行年:ページ)」とする

例:石井庄司(1957:2)は「〇〇〇」と述べている。

② 引用の最後にページ数を明示する。

例:石井庄司(1957)は「〇〇〇」(p.2)と述べている。

③ 注の形式(脚注,または,巻末注)で,参照する文献のページ数を明示する。

例:石井庄司(1957)は「〇〇〇」¹と述べている。 注1. 石井庄司(1957) p.2

原稿を投稿するにあたって

9. 投稿に際しては以下のものを同封する。

(1) 電子媒体(OS名と作成ソフト名を記載すること。USBメモリまたはSDカードによる提出が望ましい。)

(2) 打ち出し原稿4部(複写でよい)

(3) 投稿者情報(A4用紙1枚に,氏名,所属,原稿発送年月日,連絡先(電話番号,Eメールアドレス,住所),論文の表題,希望する募集枠のカテゴリーを記載したもの)
なお,提出物は原則として返却しない。

10. 更新された学会ホームページ上のテンプレートを使うこと。投稿にあたっては,特に,規定通りの字数(横書きの場合,23字×44行×2段,縦書きの場合,33字×31行×2段)となっているか,確認の上,作成,投稿をされたい。

11. 郵送に際しては書留で送付すること。また封書には氏名,所属,連絡先を記載し,表には「投稿原稿在中」と朱書すること。

12. 投稿論文は,上期においては8月1日から8月31日までの期間,下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。

13. 著作権について

本誌『国語科教育』に掲載された著作物(電子媒体への変換による利用も含む)の複製権,公衆送信権,翻訳・翻案権,二次的著作物利用権,譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが,再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。

14. 投稿資格について

投稿にあたっては**著者全員が会員資格を有し,当該年度までの年会費を納入していること。**